

「変化を受け入れる」

いつだったか、ベルテールの送迎車の中で、私の髪に注目していたお子さんが「ぬいてあげる」と言ってくれた。

白い髪のことである。

こういったお申し出は何度もいただいているが、私はいつもお断りしている。

このときも

「年をとって体が変わっていくのは自然なこと」

「葉っぱだって色が変わっていくでしょう？」

と言ったら、別のお子さんが

「角田先生は紅葉しているの？」

と言った。

なんと素敵な響きだろう。

「そうだね。紅葉みたいだね」

車内はやさしい笑いにつつまれた。

「もしかしたら老化現象をシリーズ化するつもりか」とのご懸念はごもっともである。

私自身、こんなはずじゃなかったが、書き始めたら老化の話で筆がとまらない。

これはつまり、変化を受け入れていることにほかならない。

またある日の帰りの送迎時、車に乗ろうとしたらある女の子から

「若い先生がよかった」

とのお申し出をいただいたことがある。

「これから先、学校の担任の先生や、もっと先に仕事を一緒にする人が、いつも若い人だけとは限らないよ」

「いろんな人がいるんだから、練習しよう」

「苦手な人とは、あいさつをちゃんとすれば、少し離れていていいんだよ」

など話したら、

「そっか…」と考えていた。

「若い先生がいい」と言いながら、子ども同士のトラブルが起きるとお呼びがかかる。それでいい。

